

地域おこし協力隊 あかりが
インタビューしてきました



Profile

高嶋 修平 (たかしま しゅうへい)ーラジオパーソナリティー
札幌出身。高校受験の勉強中に聞いていたラジオがきっかけでパーソナリティーを目指す。専門学校卒業後、エフエムなよりに入社。今年で入社10年目を迎えた。

きらめく
まちビット

×
高嶋 修平

突き放された道で作る
自分らしいラジオ



◀Air てっしホームページはこちら

今回はAir てっしでラジオパーソナリティーをされている高嶋さんに入社するきっかけやラジオにかける想いを聞いてきました。

●生きる意味を探して、ラジオを見つけた

兄は頭が良くて、中学生の頃は劣等感がありました。「生きる価値はなんだろう」なんて思い悩んでる時期もあって。高校受験の勉強をしていた時に、兄からラジオを勧められ、10代向けの音楽番組を聴きはじめてんです。番組内の、リスナーの質問にパーソナリティーが直接電話をかけるコーナーで、俺と同じ歳で同じ悩みを抱えている人がいました。その人にパーソナリティーは「大人も分からないんだから、そんな中学生の君が考える必要ない」って笑いながら言っていて、その時ぐらいいから憑いていたものが落ちたように感じました。それから自分の言葉で想いを伝えたいと強く思うようになりラジオパーソナリティーを目指して、札幌の専門学校に進学しました。

●ご縁とタイミングが重なって
出逢えたラジオ局

専門学校では、ラジオ番組を実際に作ったり、機材の扱い方

を学んでいましたが、ある時先生から「お前はラジオに向いていない、諦めろ」と言われ、突き放されたのと酷くショックを受けたことを今でも覚えています。それから、日本全国のラジオ局に何十件と履歴書を送りましたが、全部落ちました。このままラジオ局に就職できなくても、納得できる企業に入社しようと、プロジェクトインマッピングなどを行う企業にインターンに行っただけです。先輩方とも仲良くなって、俺はここでこれから働くんだって気持ちになつていたなか「やりたい事があるんだったら他のところに行きなさい」と翌週に卒業式が控えたタイミングで落とされてしまつて…。後日、履歴書を返してもらいに行った時、インターン先の社長に今後のことを相談したら、ラジオ局とコネクション



があり、その場で連絡を取ってくれました。ラジオ局側も即戦力になる人材を探していたり、ご縁とタイミングが重なって、念願のラジオ局に入社できたのがAir てっしでした。

●向いていないと言われたラジオで、気づけば10年

ENRAYホールができた年に入社したので、今年で10年目になります。入社してからは夕方の方の常番組を任せてもらい8年担当しましたが、今は朝の『おはようてっし』を担当しています。ラジオは正解がなく力を抜けばいいくらいでも抜く事ができる仕事だと思えます。そして公平性が大事、そういう面では特段話しが上手いわけでもなく、スポーツに興味が無かったりパーソナリティーは向いてないですね。でもそれも個性になる、そんなパーソナリティーが居てもいいんじゃないかって思っています。

ラジオへのプロ意識が強く、かける想いや熱量は120%の高嶋さんのラジオ、皆さんもぜひ聞いてみてください。



インタビュー全文は上のコードを読み取りご覧ください



移住定住コーディネーター (地域おこし協力隊)
東口 明香里 - ひがしぐち あかり -

問い合わせ 秘書広報課プロモーション推進係 (名寄庁舎3階)
☎01654③2111 (内線 3308・3316)